

青少年育成だより

令和5年12月発行
日高町青少年対策事務局
☎ 01456-2-3722

令和5年度「少年の主張」最優秀賞（北海道知事賞）

恨みを愛へ

下川町立下川中学校3年 三浦かなさん

「み、みず！水！」

まただ。また妹がうなされている。5年前、末の妹が保育園の送迎バスに置き去りにされた。何人もの大人が確認を怠り、妹はバスの中でだんだんと意識を失っていった。偶然早く迎えにきた母が気づいたことで、発見された。新聞に掲載されたのは、「命に別状はない」の一文。しかし、別状がないというのはただ生きていくというだけで、今までの日常が戻ってくるわけではなかった。

あの日から、私たちの生活は一変した。妹は事故のトラウマで夜中に泣き叫ぶようになった。ひとりでトイレに行けなくなった。村の安全対策に疑問をもち、私たちは隣町に引っ越すことになった。家族みんなが不安定になり、母から笑顔が消えた。妹は引っ越しのストレスで脱毛症になった。こうなったのは事故のせいだ、不注意な大人のせいだと、私は毎日事故を恨んだ。

当時私はまだ小学生だったが、何とかしたいと強く願った。苦しむ子どもが出ないように、壁新聞を作ったり作文を書いたりして社会に訴えかけた。しかし、当事者になるまでみんな他人事で、誰も耳を傾けてはくれなかった。

そんな時、私たちに転機が訪れた。息子さんを保育中の川の事故で亡くされた方と知り合ったのだ。ライフジャケットさえ着ていれば守れた命だった。その人は、二度と同じような事故が起こらないように、ライフジャケット着用を呼びかける活動をしている。

会う前は、彼女も私と同じように社会を、事故を恨んでいると思っていた。しかし実際に会った彼女は、おだやかで、笑顔がすてきな方だった。

失礼ながら私は、「あなたは事故を恨んでいないのですか？」と聞いた。すると彼女はこう言った。

「もちろん、事故のことは憎い。だけど、その憎む気持ちは置いておいて子どもの命を守ることを第一に活動している。」

笑顔を忘れずに、活動を自分自身が楽しむ。そうすると、自然と共感してくれる仲間が増えていくという。

私はその姿に心動かされた。確かに、事故を恨んでいることを訴えても、そこから何も生まれない。関係者への恨みが増すだけで誰もハッピーにはならない。

私たちは、それまで抱いてきた事故や社会への恨みを、社会への愛に変えることにした。これ以上苦しむ人がいなくなることが、私たちの最大の願いであるということに気づいたからだ。

それから私たちは、社会を巻き込んで活動していった。大好きな野生生物の命を守るため、この4年間家族で毎月ゴミを拾っている。水の事故をなくすため2年かけてライフジャケットレンタルステーションを設置した。

髪がない辛さを知り、妹達と、3回目のヘアードネーションに挑戦中だ。目の前にはいない誰かと繋がっている気がする。こうやって小さいけれど、少しずつ楽しみながら社会を変えていこうと今も活動している。

私が住む下川町は昔、小学生が自転車事故で亡くなったことをきっかけにヘルメット着用を推進している。何十年も前の死が、そのまわりの人々の活動が、今の私たちの命を守っている。私たちは見ず知らずの誰かの愛に支えられて生きているのだ。

意識していなくても、私たちみんなが社会と繋がって社会を作っている。安全な社会を作っていくのは他でもない私たちひとりひとりだ。これからも、立ち上がれないほどの苦しみや悲しみを経験することがあるかもしれない。

私は、そんな時こそ恨みに心が占拠されないようにしたい。過去を恨むのではなく周りへの愛に変えることで未来はきっと変えられる。

「少年の主張」は、道内287校2万7千人の応募の中から16名が各地区代表として全道大会に進み、社会に向けての思いや未来への希望を堂々と発表しました。(当日1名欠席)

公益財団法人 北海道青少年育成協会
機関誌「育む」 No. 31より転載

令和5年度 絆づくりメッセージ コンクール

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

ことば・メッセージ部門には、管内の小・中・高等学校から590作品の応募があり、その中から右の2つの作品が「最優秀賞」と「奨励賞」に選ばれました。

ことば・メッセージ 団体部門 最優秀賞 厚賀小学校5・6年生

ありがとう その一言で いい笑顔

ことば・メッセージ 個人部門 奨励賞 富川小学校6年 三上 純矢 さん

気をつけて あなたの言葉が 追いつめる

【いじめやネットトラブルをなくそう】

思いやりをもって人と接する社会の実現に向け、作品を創る側と観る側の意識が高まることを目指しています。

◆◇冬休みを有意義に◇◆

季節行事のある冬休み。中学校3年生は、将来を見極める大切な時期ですが、子どもたちの生活のリズムが崩れないように一緒に過ごす時間を大切にしてもらいたいと思います。そのためには、多くの会話を通し、成長を助けることが大切です。また、「早寝・早起き・朝ごはん運動」を実践することがリズムを崩さないために必要です。

ご協力をお願いします。

《町内各学校の冬季休業期間》

学 校 名	電話番号	休 業 期 間
日高小学校	6-2620	12月23日～1月18日
日高中学校	6-2624	12月22日～1月15日
日高高校	6-2626	12月23日～1月15日
富川小学校	2-0027	12月23日～1月17日
富川中学校	2-0026	12月23日～1月15日
富川高校	2-0411	12月23日～1月16日
門別小学校	2-5006	12月23日～1月16日
門別中学校	2-5039	12月23日～1月14日
厚賀小学校	5-2154	12月26日～1月18日
厚賀中学校	5-2404	12月23日～1月14日

日高地区 01457 門別地区 01456

日高町電子メディア使用ルール(小・中学生向け)

- ◎使用時間は2時間以内、午後9時で使うのをやめましょう
- ◎相手の嫌がる書き込みはやめましょう
- ◎スマートフォンなど使わない人を仲間外れにしない
- ◎困った時は、大人に相談しましょう



冬のスポーツ



教育長杯町民
スピードスケート大会
1月28日(日)

SNSでの事件が報道されています。使い方を家庭で考えましょう。

また、各学校から「冬休みの心得(過ごし方)」という冬休みの生活に関するきまりも配布されています。ご家庭でも確認をお願いいたします。